

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第2週 (1/11-1/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		2週	1週	53週	52週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	17	17	16
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	27	25
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	1/11-1/17	1/4-1/10	12/28-1/3	12/21-12/27	1/4-1/10
			2週	1週	53週	52週	1週
小児科	RSウイルス感染症		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	0 0.00	2 0.13	40 0.31
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3 0.17	5 0.29	1 0.06	5 0.31	62 0.49
	感染性胃腸炎		19 1.06	26 1.53	5 0.29	21 1.31	227 1.79
	水痘		1 0.06	2 0.12	1 0.06	5 0.31	21 0.17
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.13	5 0.04
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	1 0.06	2 0.13	2 0.02
	突発性発しん	○	12 0.67	9 0.53	4 0.24	6 0.38	37 0.29
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.06	5 0.04
インフル	インフルエンザ*（高病原性鳥インフルエンザを除く）		0 0.00	7 0.26	3 0.11	0 0.00	7 0.03
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	5 1.00	1 0.20	2 0.40	15 0.47
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(523件)

※新型コロナウイルス感染症520件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出
つつが虫病	女性	50歳代	血清抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第2週は、結核1件(7)、つつが虫病1件(1)、梅毒1件(3)、新型コロナウイルス感染症520件(1145)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第2週のコメント

＜突発性発しん＞前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜つつが虫病＞

第2週につつが虫の届出が1件ありました。

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシに刺されて感染し、潜伏期は5～14日で、典型的な症例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます。刺し口の所属リンパ節は発熱する前頃から次第に腫脹し、第3～4病日より不定型の発疹が出現しますが、発疹は顔面、体幹に多く四肢には少ないです。重症になると肺炎や脳炎症状を起します。

2021年第1週の全国の発生届数は18件で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では千葉県及び宮崎県(共に7件)が最も多く、他は神奈川県、静岡県、愛知県、兵庫県で各1件ずつとなっています。千葉市では、ほぼ2年おきに1～2件発生しています(図1)。過去を含めた10年間(2012年から2021年)に7件の発生届があり、推定を含めた感染地域は、県内が5件、県外及び不明がそれぞれ1件となっており、年間を通して冬期が多くなっています(図2)。なお、肺炎や脳炎症状は報告されていません。

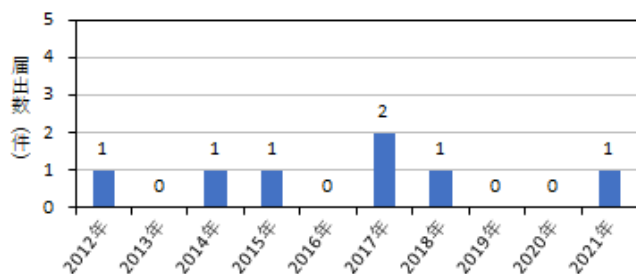


図1 つつが虫病 発生届出数の推移

2012年～2021年第2週 n=7

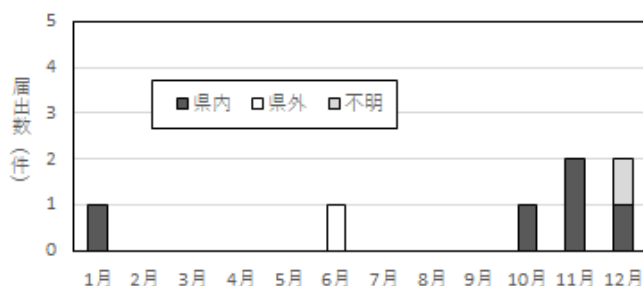


図2 つつが虫病 月別感染地域別届出数

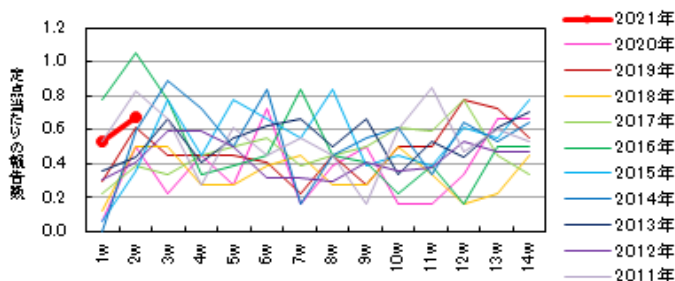
2012年～2021年第2週 n=7

第2週の届出は、推定感染経路が千葉県内におけるダニに刺されたことによるものでした。一般に春先と秋～初冬にかけて報告が多くなります。

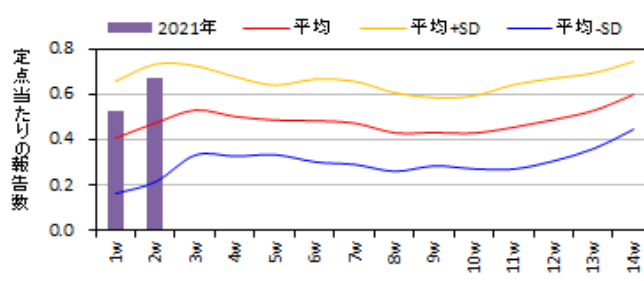
予防法は、①皮膚の露出を少なくする②ダニ忌避剤を使用する③作業後入浴し、注意深く付着ダニの除去を行う等、ダニの吸着を避けることが重要です。

＜突発性発しん＞

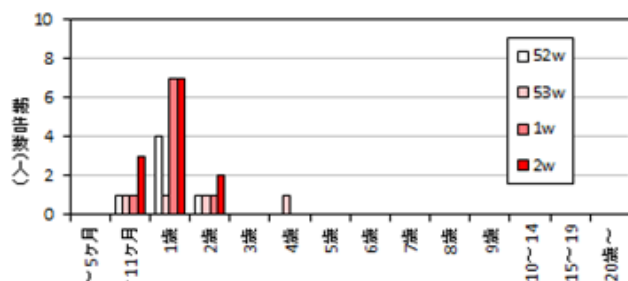
全国レベルの第1週の定点当たりの報告数は0.36で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、宮崎県、熊本県、大分県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.29で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第2週は前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.5)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2021年の累積報告数は21件で、男性52.4%(11件)、女性47.6%(10件)となっており、年齢階級別では1歳(66.7%:14件)、6～11か月(19.0%:4件)、2歳(14.3%:3件)の順に多くなっています。



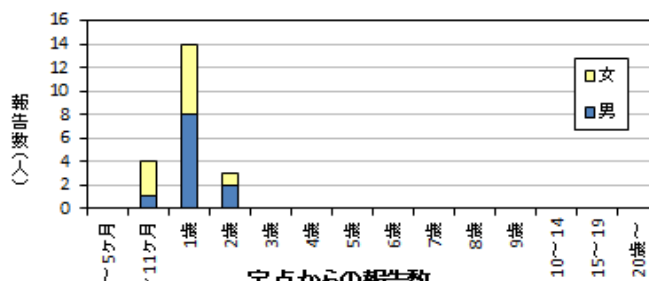
各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2011年～2021年 1w～14w)



過去10年間の比較
2021年 1w～14w



定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2021年 1w～2w n=21